

…夢職人となった児童生徒の応募作品から ②自分が地域に協力してできること…

『投稿いただいた作文をほぼ原文のまま掲載しました。』

子どもから高れい者がふれ合える港北区

大綱小学校 五年 秋山 未依

私は、子どもから高れい者がふれ合える町づくりをしたいです。そして、港北区をもっとにぎやかで楽しい町にしたいです。

私は、ふれ合い方を三つ考えました。

一つ目は、「子どもたちがデイケアに行つて高れい者とふれ合う」ことです。私たちは、肩もみやしよぎをする事で、高れい者の方の役に立てるし、高れい者の方から今までの経験をうかがうことが出来るので、おたがいが楽しくふれ合えます。

二つ目は、「日じょうの場面でふれ合う」ことです。例えば、高れい者の方が荷物が重くて困つていたら手伝うことです。このふれ合い方は、かんたんそうに思うけどなかなかむずかしいです。

三つ目は、「公共の場所でふれ合う」ことです。港北区には、新横浜や港北スポーツセンター、港北図書館、岸根公園、梅林、スーパーマーケットなど、公共の場所がたくさんあります。港北区内のたくさんさんの公共の場所でイベントを開けば、楽しくふれ合えると思います。

このように、港北区内の公共の場所を利用し、地域と協力してふれ合える町にしたいです。



きれいな町エコな町に

大豆戸小学校 五年 川口 由華

わたしは、「この町のいいところは、公園がたくさんあることだと思っています。

この港北区をもっと良くするために自分ができることは、いろんな『時』にあると思います。例えば、買い物の際に気をつけることです。一つ目は、買い物袋をもらわずに、エコバックを持ち歩くことです。二つ目は、今ほしいものがあっても、本当に今必要かどうかを考えてから買うことです。三つ目は、長持ちするじょうぶな商品を選らぶことです。買い物の際に気をつけていれば、ごみが出ないことがあることが分かったので、これから買い物に行く時は、こういうことを気をつけながら買い物したいです。

ほかには、水を使う時に気をつけることです。例えば、お皿を洗う時、合成洗剤を使わず石けんを使うことです。二つ目は風呂は家族続けて入ることです。水を使う時でも気をつけることできれいな川に出来ます。

あと電気を使う時です。例えば、エアコンはなるべく使わないことや、見えないテレビ、人のいない部屋の電気を消すことなどです。電気を使う時でもいろいろ気をつけないといけないことがあることに気がつきました。

そのほかにも、公園のトイレはきれいに使う、公園に「ごみ」を置いてごないで帰って帰ってくるなど、身近なことに気をつけることがたくさんあったので、そういうことをきちんと気をつけていきたいです。

なぜ「二つ」のことをしたいと思ったかというところ、道ばたに「ごみ」が落ちていたらちゃんと持って帰って「ごみ箱」にすててほしいと思うようになったからです。あと、川とかも魚とかがすみやすい川になってほしいと思うからです。

「二つ」いう、かんきょうにやさしく、きれいな町エコな町になってほしいです。そのために、自分のできることをきちんとして、かんきょうにやさしくきれいな町エコな町に近づけるようにしていきたいです。



つながりを大切に

太尾小学校 六年 池谷 悠里

いつ起るかわからない地震や火事。みなさんは、災害への備えをしていますか。私は、避難訓練をしつかりやります。他にも避難経路なども確認しています。被害を小さくするために物を置く場所にも気をつけています。三日分の食料の備えもしてあります。

でも、いざ本場に災害が起ったら、私はどうなってしまうのか。もし、そばに家族がいなかったら、どうしようかと不安はつきません。

私の家の近所には、マンションが立ち並び、たくさんの方が住んでいます。健民祭では同じテント、同じチームでお互いを応援します。ふるさと太尾まつりでは、地区別にテントでお店を出します。地区の人と協力して、売り上げを上げるためにがんばります。売売したときは、みんな大喜び。お互いの気持ちが通じ合える瞬間です。

また、地域の人は自分の得意分野を生かして、地域のお手伝いをしてください。私も、去年総合の学習で米作りを手伝っていたり、クラブでいろんなことを教わったりしました。

私は、二年間和楽器クラブに入りました。琴と三味線をやっています。和楽器が得意なボランティアさんが、やさしくていねいに教えてくださいました。星祭りに出たとき、たくさんの方が見に来てくださり、とてもうれしく思い、それと同様に太尾の町は、みんなが協力できる温かい町だと思いました。

太尾のまちのいいところは、「協力」のチャンスがたくさんあることです。私は、地域の行事に参加したり、ふだんからあいさつをしたりして、つながりを深めていけばいざというときにお互いに協力し、助け合いができる仲間になっていくのではないかと思います。それが、災害への一番の備えだと思います。





街をもっとよくするために

大綱小学校 六年 見山 紗月

自分と地域が協力してできることって、何でしょうか。

どうせなら、エコにも関連させたい。そう考えたとき、頭に浮かんできたのが木を植える活動とゴミ拾いでした。

年に一度、十組限定で街のどこかに、木を植える。街の空氣が良くなるし、植えた人の気分も良くなります。植える場所は、梅林や道のはし。いろいろな費用はぼきん箱を人がよく来る場所に置いて、宣伝をすれば集まるでしょう。ポスターを作ってはるのも良いかもしれません。

それに加えて、ゴミ拾いの大会を開きます。紙に拾ったゴミを書き、その紙に書いてあるものを拾ってきます。一番に全部拾ってきた人に賞品をわたします。これは、街のゴミも少なくなり、しかも地域活性化にもつながるでしょう。ゴミが少なくなると、街に住む人も気分が良くなると思います。

大会をするのは、年二回が良いでしょう。

拾ったゴミは、ちゃんと分別しないと失格にします。そうすると、拾ったゴミがリサイクルできるでしょう。

賞品は、商店街で使える五百円の券が良いと思います。それ以下だとする人のやる気がなくなるでしょう。それに、使う費用も募金で集めます。街がキレイになるのだから協力してくれるでしょう。

私は、この街が好きです。でも、日かげがなくて暑かったり、道に落ちているゴミが気になったりします。こういうことがなくなれば私はこの街がもっと好きになるし、他の人たちもこの街が好きになってくれるでしょう。



あいさつへの心がけ

日吉南小学校 六年 山田 莉奈

私は、自分から地域の方たちへあいさつをすることが、より良い港北区へつながると思います。

あいさつは、あいさつをした人もされた人も、気持ちが良い明りになります。そのため、あいさつが増えると明るい地域も増えていきます。

私が、自分から地域の方へあいさつをしていくこともできます。でもあいさつを増やしていくには、みんながあいさつをしなければいけないと私は思います。知らない人だから。はずかしいから。などの理由であいさつをしていない人もいるかも知れません。でも、そのような人が増えてしまうと、地域が暗くなってしまうです。

勇気を出して、あいさつをすることが大切なのです。

でも、なかなかできない人もいるかも知れません。そのような人たちや、地域を明るくするために、各地域であいさつ週間をつくれればよいのです。学校や地域で協力し、各場所五人ぐらいで通りかかる方へあいさつをするなどして、あいさつを増やし、地域を明るくしていくことが良いと思います。

自分自身も心がけ、学校や地域と協力していくことが一番大切なのかも知れないと思います。みんなで心がけ、より明るく元気な港北区をつくっていききたいです。



「こんな地域になったらいいな」

日吉台中学校 一年 長井 美樹

私の通う中学校には、自動販売機があります。地域を見てみると自動販売機の置いてある場所では、飲み終わった後のゴミが散らかっているように思われますが、私の中学校では、飲み終わった後の缶やペットボトルがあまり落ちていません。その理由は、生徒会が行っているゴミゼロ運動を全校生徒が意識しているからです。最近では、この運動により少しずつですが、ゴミは減ってきています。校内を歩いていて、ゴミが落ちていれば近くのゴミ箱に捨てる人が増えているからです。この運動を地域に広め、他人のゴミでも拾って捨てることができれば、地域もますますきれいになると感じています。

ところで、私は東京都の世田谷に夏、遊びに行った時、たくさんのはたれを見た事がありました。その時、私はまだ幼くよく覚えていないのですが、とてもきれいだった事は今も覚えており、その光景が神奈川県でも見られたら良いな。とっていました。中学生になり、はたれは水のきれいなところにすんでいると知りました。そこで、家の近くの野鳥の見える川を今よりきれいに出来たら、私の地域でもはたれは見えるのではないかと考えました。

小中学校を中心にはたれの幼虫を育て、成虫になったら川や池に放して卵を産んでもらい環境を整えます。これを毎年繰り返したら、たくさんのはたれが住み着いてくれると思います。

そして私は、ゴミの落ちいてない地域と水がきれいideたくさんのはたれが見られる所として港北区や横浜市が全国に広まったらすてきな。と思うので、校外ゴミゼロ運動や清掃の地域ボランティアに参加したいと思っています。是非、小さなゴミ拾いから、たくさんの方が舞うふる里にしていきたいと願っています。





小さなことを協力する

日大中学校 二年 相澤 美乃里

私の学校では、ペットボトルを捨てる時、ペットボトルのふたを分けています。それは、ペットボトルのふたでワクチンと交換でき、より多くの人を救おうとし活動しています。

そこで、私が考えたことは、港北区全体でもできることです。

それは、歩道に置いてある自動販売機の横に、ゴミ箱と一緒にペットボトルのふたと缶のプルトップを集められるような物を置くことです。ペットボトルのふたは、ワクチンと交換でき、プルトップは車椅子と交換できます。

その他に、駅に置いてある公衆電話の横に使わなくなったテレホンカードを集める箱、港北区にも学校や会社などたくさんあります。そこで印刷に使うインクカートリッジが使い終われば何かと交換できるという事を前に聞いたことがあります。私が作文に書いた、エコキャップ集め、プルトップ、テレホンカード、インクカートリッジを集めるという活動は、小学校で活動してきたことです。

私は、小学校で活動した中で一番エコキャップ活動などが人のためになり地域の人たちも進んで協力し、朝学校に登校するとき、「これお願いね。」と言われ、より沢山の人を救うことができると同時に地域の人たちとあいさつができ、交流がより深まりました。

このように、地域の人とも交流ができ沢山協力ができます。

私は、これまでの経験で地域と協力してきた事以外にも、地域の人と協力できることがあればいろいろしたいし、進んで協力したいと思います。



いま、私にできること

樽町中学校 三年 木村 日向子

今、日本では少子化が問題になっていますが、私が住んでいる港北区では、他の地域に比べて子どもの数はとても多いように感じます。私の家の隣には公園があって、若いお母さんが一人で子どもと遊んでいる姿をよく見かけます。小さい子どもが大好きな私は、そんなお母さんの姿を見ていて楽しそうだなと思う反面、子どもと一日中一対一で居る毎日はきつくと大変なこともあるのではないかと思います。

また、その公園では一日中やることなく、ベンチに座っているだけの老人も多く居ます。時々、おばあさんが若いお母さんに話しかけると、若いお母さんは、とても嬉しそうな顔をして会話をしていたりします。

そんな様子を見て私は、この人たちが一緒になって楽しく交流できる場があれば良いのではないかと思います。そうすれば、若いお母さんたちは、子育ての悩みなどを相談できるし、高齢者の方たちは、自分の経験や知識などを次世代に伝えることが出来ると思います。

そのため、港北区としては、子育て中のお母さんたちと高齢者が交流できる場所や機会をもっと設けるようにしてはどうでしょうか。たとえば保育園や幼稚園においさんたちをお招きして、一緒に遊んだり逆に老人ホームに子どもたちが行くのも良いと思います。住みやすい街というのは、物やお金をたくさん持っているような「物質的な満足感」だけでなくお互いに必要とされているという気持ちから生まれる「精神的な満足感」もとても重要だと思います。

私は、自分が生まれ育った大好きな港北区が、小さい子どもから高齢者までみんな楽しく暮らせる街になるように地域の役に立てる大人になりたいと思っています。

